

令和3年度事業報告書

公益財団法人肥後医育振興会

熊本県における医学振興に必要な教育・研究の助成及び委託事業を行い、もって地域医療の向上と県民の健康増進及び日本国内外の医学・医療の進展に寄与するため、次の事業並びに支援を行った。

1. 医学教育・研究の助成（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する若手の個人又はグループに対して医学研究助成金を授与するため公募を行い、16名の応募者の中から選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に授与した。

なお、研究助成金の授与とともに「肥後医育振興会学術奨励賞」を付与することとした。

かどまつ つよし

門松 毅（40才）熊本大学大学院生命科学研究部 分子遺伝学講座 講師
「免疫逃避機構の新規分子基盤解明による新たながん治療戦略創出に向けた基盤研究」

きどう まさふみ

木藤 雅文（40才）熊本大学病院 画像診断科・治療科 特任助教
「心房細動患者における心臓CTを用いた心筋評価：撮影法確立と臨床的意義の解明」

なりた ゆうき

成田 勇樹（35才）熊本大学病院 薬剤部 助教
「セリンプロテアーゼの制御によるCKD移行及び重症化抑制のための新規AKI治療法の確立」

のだ だいち

野田 大地（37才）熊本大学大学院先端機構 生命資源研究・支援センター
生殖機能学分野 准教授

「ダウン症候群モデルマウスを用いたオス生殖能力の解析」

2. 医学国際交流の支援（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する外国人留学生に対して奨学金を授与するため公募を行い、7名の応募者の中から選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に奨学金を授与し「肥後医育振興会優秀留学生彰」を付与することとした。

ブ キイク

武 キイク 熊本大学大学院医学教育部 博士課程1年（中国）

シ ギョクタン

史 玉丹 熊本大学大学院医学教育部 博士課程1年（中国）

トンガラグ サロール

Tungalag Saruul 熊本大学大学院医学教育部 博士課程2年（モンゴル）

キン キン

金 鑫 熊本大学大学院薬学教育部 博士前期課程2年（中国）

3. 熊本県民への医学医療情報提供活動（公2，公3，収1）

(1) 「肥後医育塾」公開セミナーの開催（公2）

県民に対して、定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに考える健康と医療を目指す目的で、一般財団法人化学及血清療法研究所並びに熊本日日新聞社との共催で、市民公開セミナーを年3回開催した。

年間テーマに「診療連携」を取り上げ、3回の講演会を熊本市で行うとともに、毎回、熊本日日新聞紙上で「肥後医育塾」特集を2頁に亘って掲載し、YouTube配信を並行して行った。

第1回は、「新型コロナウイルス感染症における『診療連携』～長期化するパンデミックにどう対応するか～」（R3.7.11、ホテル熊本テルサ）、第2回は、「かかりつけ医と専門病院の診療連携～病気を治療・管理するには～」（R3.12.11、熊本日日新聞社）、第3回は、「母と児の二つの命を守るために～周産期医療とその連携～」（R4.1.16、熊本市医師会館）の演題で開催し、1回目と2回目は新型コロナウイルス感染拡大防止のため聴講者を100名に限定、3回目は無観客で実施しYouTube公開を行い、後日熊本日日新聞紙面(R3.8.19/R4.1.14/R4.2.18)及び本財団のホームページ上で内容を県民に公開した。

(2) 第12回「熊本県医療人育成総合会議」の開催（公3）

第12回の熊本県医療人育成総合会議は、「パンデミック下の病院実習とワクチン接種」のテーマで、令和3年11月23日（月・祝）に熊本大学医学部キャンパスで開催した。

新型コロナウイルスのワクチン接種に関しては、予想外の事態がいきなり多数出現した。例えば、初めてmRNAワクチンが人間社会に登場し、しかも一気に世界的な規模で使われ、医学医療関係者も詳細を把握する間もなく接種を受けざるを得なかったこと、限られた数のワクチンの社会的な分配において、臨床実習を前にした学生や教職員への接種をどのような順位に位置付けるのかが政治的な課題にも上らなかったこと、その実習を前にした学生たちの中に接種を希望しないものが現れてしまったこと、その背景として、出典や正確度を把握することが不可能な「風聞」的な情報がインターネット上を駆け巡ったこと、素早い変異ウイルスの出現が相次ぎ、ワクチンの有効性や必要なブースター接種の回数などがいまだに確定できないことなどが挙げられる。

その上、感染状況の推移次第では、コロナ感染症専門病院の指定やそれに伴う実習予定病院の機能の一時的なシフトや、更には地域医療崩壊がおきた際の学生実習の扱いさえも考えておかねばならない事態に追い込まれるかもしれなかった。

そこで今年度の医療人育成総合会議では、mRNAワクチンに関する内容も含めて、臨床実習とワクチン接種に関する喫緊の課題について議論した。

なお、開催に関しては実行委員会を設置し会議の内容の詳細を企画・立案した。

参加対象者は、医療関係の大学・専門学校等の教育関係者、各医療技術者協会の代表者、病院関係の代表者、行政関係の担当者のほかに新聞等で学生や一般参加者も募り、約100名の参加があった。後日熊本日日新聞紙面(R3.12.23)で内容を県民に公開した。

(3) 生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療、その他関連記事の編集及び刊行 (収1)

熊本日日新聞社が発行するタブロイド版16頁の総合情報紙「あれんじ」(35万部発行)の第一土曜日号の10面と11面の見開き2頁を使い、健康・医学・医療並びに医学に隣接した学問分野の学術情報を県民に提供した。

内容としては、「元気の処方箋」(最新の医学医療記事)と「子育て応援クリニック」(小児科関連の医学医療記事)を12回、「慈愛の心・医心伝心」(女性医療人のリレーエッセイ)を8回、「四季の風」(俳句欄)を4回掲載した。

以下に「元気の処方箋」のテーマを記載する。

- 4月 ステイホームのメンタルヘルス～人との心理的な距離まで遠くならないように～
- 5月 目にも予防医学を ～守りたい子供の目の健康～
- 6月 予防や治療の理解につなげたい ～がんの基礎知識～
- 7月 どうなっている？肝炎・肝がん
- 8月 性の多様性と性同一性障害
- 9月 適切な治療で治る ～骨盤臓器脱～
- 10月 良い眠りのために「陰ヨガ」を ～家庭でできるエクササイズ～
- 11月 「陽ヨガ」で一日を元気にスタート ～家庭でできるエクササイズ～
- 12月 正しい知識・迅速な対応を ～大動脈解離～
- 1月 適切なスキンケアで防ごう ～乾燥による湿疹～
- 2月 無痛分娩の「？」に答えます
- 3月 ある種の疾患群の総称「膠原病を理解しよう」

4. 医学・生物学領域の学会・シンポジウムの助成 (公4)

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する医学・生物学領域の学会やシンポジウムに対して次のとおり助成した。

- ① 第36回熊本医学・生物科学国際シンポジウム (R3. 5. 27～28 開催)
- ② 国際シンポジウム「健康長寿延伸への新たな挑戦」 (R3. 5. 27～28 開催)
- ③ 日本呼吸器学会等九州支部秋季学術講演会 (R3. 10. 22～23 開催)

5. 医学・生物学領域の研修会・教育セミナー等の助成 (他1)

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する医学研究会並びに研修会等に対して次のとおり助成した。

- ① 熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成 (R3. 4. 1～R4. 3. 31 開催)
- ② 第26回日本難病看護学会学術集会 (R3. 7. 17～18 開催)
- ③ 第73回九州歯科医学大会 (R3. 10. 23 開催)
- ④ 第22回熊本エイズセミナー国際シンポジウム (R3. 11. 17～18 開催)
- ⑤ 第28回日本航空医療学会総会 (R3. 11. 19～20 開催)
- ⑥ 第21回熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ (R3. 12. 4 開催)

6. 広報活動事業 (他2)

- (1) 本財団の活動状況及び財政状況等を周知するために、広報紙「ニューズレター26号(A4判28頁)」を3,000部発行(R3.8.31)し、関係者へ配布するとともに本財団のホームページ上で内容を県内外に公開した。
- (2) ニュース性の高い分かりやすいホームページを目指し、内容を随時更新し、本財団の多彩な活動内容を県内外に公開した。